



▲2005年優駿牝馬（G1）

世界に挑んだ 優駿たち

— Vol.8 —

▼2005年アメリカン・オークス（G1）

日米オークスを制した才女

シーザリオ

2000年代の中盤、クラシック競走で実績をあげた3歳牝馬が積極的な挑戦を続けた海外のレースにアメリカン・オークス（米G1、3歳牝馬、芝2000m）がある。2004年のダンスインザムードから4年連続で4頭が出走したこのレースで、ただ一頭勝利をあげたのがシーザリオである。

種牡馬スペシャルウィークの2年目の産駒として誕生したシーザリオがデビューしたのは2歳12月。2番人気で出走した新馬戦を1馬身半差で快勝すると、3歳の1月に寒竹賞へ向かう。牡馬の強豪がいたため、ここでは4番人気に甘んじたが、直線で先頭に躍り出ると、アドマイヤフジの猛追をクビ差抑えて連勝を果たした。ようやく高い評価が定まったシーザリオは、次走にフラワーCを選択。単勝オッズ1.4倍の圧倒的1番人気に推されると、逃げるスルーレートをあっさりと捉え、ゴールでは2馬身半差をつける圧勝を遂げた。

迎えるクラシック冠目の桜花賞。レースは、トライアルのフィリーズレビューを勝ったラインクラフトとの“二強”ムードに包まれた。シーザリオは中団を追走し、直線で爆発的な末脚を繰り出したが、先に抜け出したラインクラフトにアタマ差及ばず、デビュー4戦目にして初めての敗戦を喫した。

続いて出走したオークスでは、ラインクラフトがNHKマイルカップへ進んだため、シーザリオの“一強”という声が強くなった。そして単勝オッズ1.5倍の1番人気という圧倒的な支持を受けると、ここでも後方から目の覚めるような末脚を発揮。中団から伸びたエアメサイアとの接戦をクビ差制して、念願のGIタイトルを手に入れた。

ここでシーザリオは余勢を駆って、前年のダンスインザムード（2着）に



続き、米国のハリウッドパーク競馬場で行われるアメリカン・オークスへと駒を進めた。そして福永祐一騎手を背に臨んだ日本の“樞の女王”は初の海外遠征で恐るべき強さを見せる。積極的にレースを進めて3コーナーで先頭に立つと、あとは後続を引き離す一方で、2着に4馬身差をつけてレースレコードでゴール。これが日本調教馬初の米国G1制覇という記念すべき勝利となった。

そのあと脚部の故障で休養に入り、結局戦列への復帰は叶わなかったが、繁殖牝馬として、菊花賞やジャパンカップを制したエピファネイアを送り出したシーザリオ。その傑出した能力は、その仔にも確かに伝えられている。

全成績		中央5戦4勝 海外1戦1勝				
年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
2004.12.25	阪神	2歳新馬	1600	1	1:36.7	福永 祐一
2005. 1. 9	中山	寒竹賞	2000	1	2:01.6	福永 祐一
3.19	中山	時事通信杯フラワーC（GⅢ）	1800	1	1:49.0	福永 祐一
4.10	阪神	桜花賞（GⅠ）	1600	2	1:33.5	吉田 稔
5.22	東京	優駿牝馬（GⅠ）	2400	1	2:28.8	福永 祐一
7. 3	米	アメリカン・オークス（GⅠ）	2000	1	1:59.0	福永 祐一

※レース名は当時の表記による

シーザリオ 牝 青毛 2002年3月31日生 調教師：角居勝彦 馬主：（有）キャロットファーム		
父 スペシャルウィーク 1995 黒鹿	サンデーサイレンス	Halo Wishing Well
	キャンペンガール	マルゼンスキー レディーシラオキ
母 キロフプリミエール 1990 鹿	Sadler's Wells	Northern Dancer Fairy Bridge
	Querida	Habitat
		Principia